



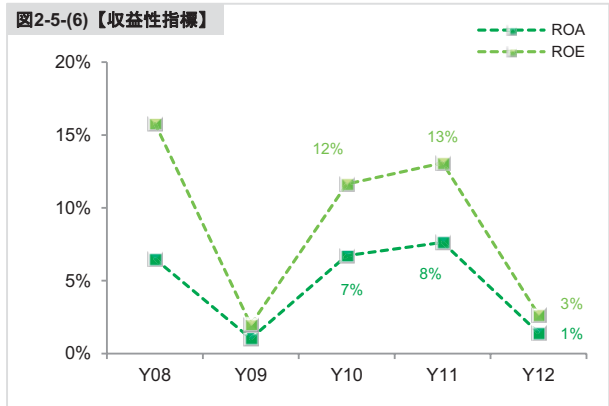
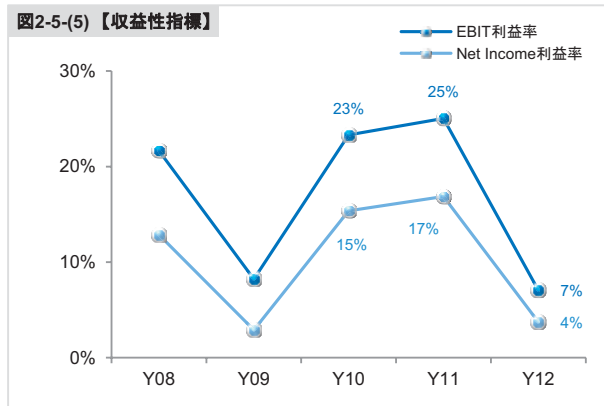
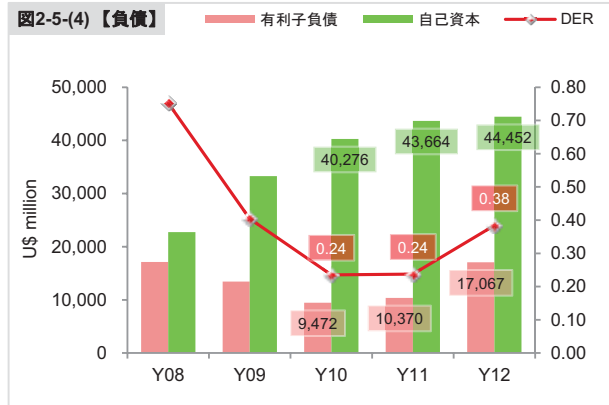
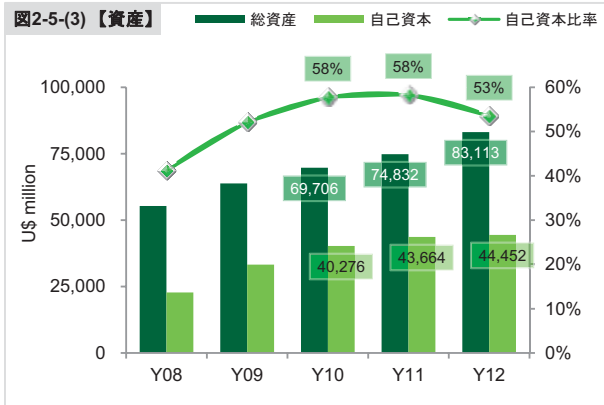
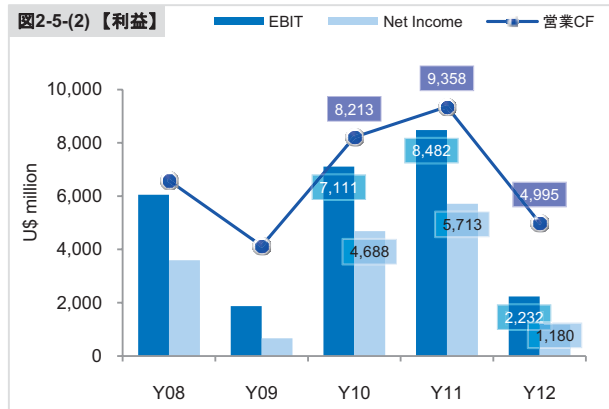
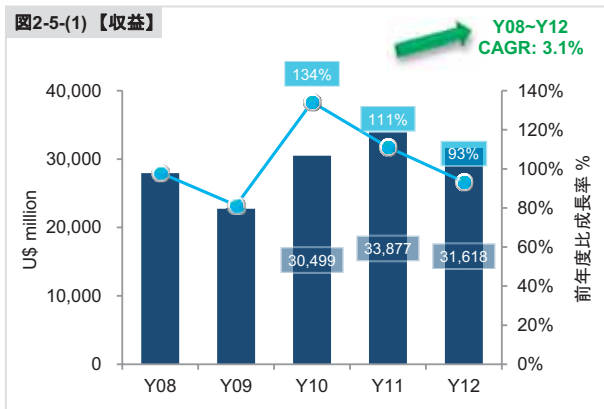
Xstrata

2-5-1 企業概要

設立: 1999年 ¹	本社: Zug (スイス)	上場先: LSE / SIX											
決算期: 12月末	CEO: Mick Davis (2002年2月~)	連結従業員数: 43,323名											
生産鉱種:													
Fe	Cu	Al	Zn	Pb	Pt Pd	Au	Ag	DIA	K	P	石炭	石油	ガス
Ni	Mn	Mo	Nb	Cr	Ti	Co	B	U					

2 - 5 Xstrata

■ 経営数値 ■



¹ 1926年に設立されたSudelektraを1990年にGlencoreが38%買収し、その後、1999年に社名をSudelektraからXstrataに改称。

図2-5-(7) 【投資状況】

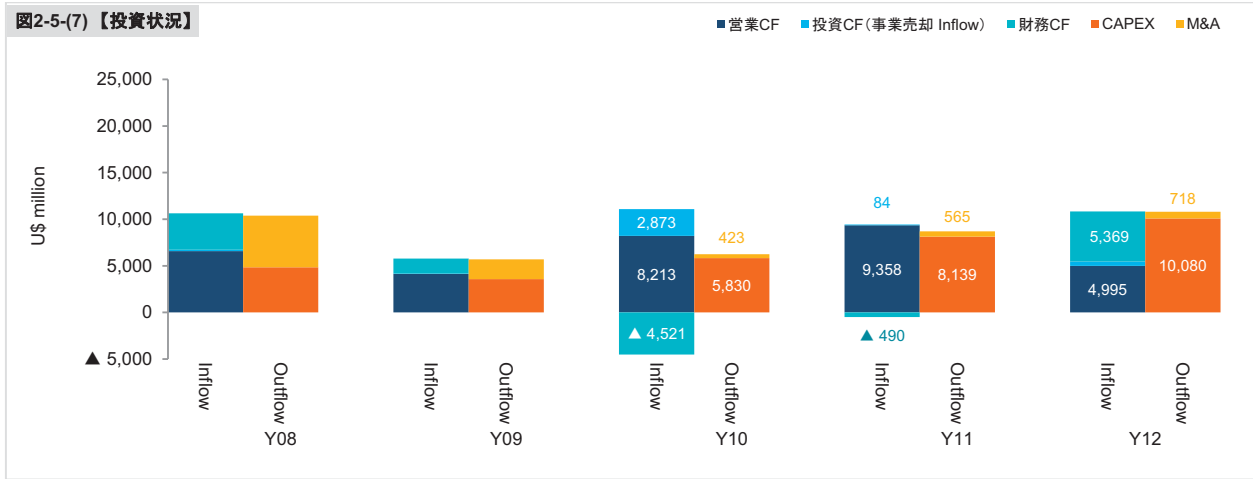


図2-5-(8) 【配当】

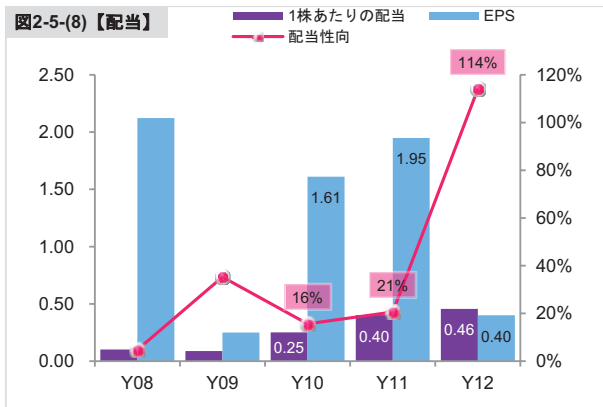
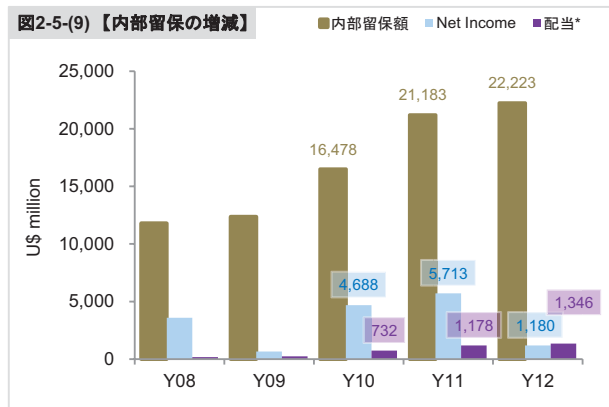


図2-5-(9) 【内部留保の増減】



* 配当は通期の金額。C/F 上の配当額とは異なる。

2012 年は Xstrata の事業活動のあらゆる点において変化・変革が起こった年だった。買収と資産入替のステージに続く成長戦略のステージ (Organic Growth Strategy) は 09 年から本格的にスタートしており、例えば、銅事業においては、14 年までに生産量を倍増させるなど、本来、12 年は成長計画の中間地点に位置している年だった。これに対し、10 件の投資事業において、生産開始計画を前倒するかたちで、12 年度にコミッションングがスタートした。これに伴い、12 年度に投下された CAPEX は 76 億 US\$ となり、投資のピークを迎えた年となった。加えて、12 年 11 月、当社の株主は Glencore との合併を承認した。これは Xstrata の歴史において最も重要な発展である。この統合により、生産から販売までのバリューチェーン機能を兼ね備え、より多くの利益を生み出す能力を持つユニークな資源会社が誕生する事になる。

～2012 年を振り返って～

12 年は商品価格の下落、生産コストの上昇および資源国通貨の対米ドル高という複合的なインパクトが収益を圧迫した年であり、当社の経営にも大きな影響を与えた。OECD 諸国に代表される先進国の経済は依然として明確な回復には至っておらず、それに伴い、先進国への輸出増が急成長のドライブとなっていた中国やインドなどの新興国の経済にも波及した事で、グローバル金融危機からの回復が見られた 10 年や 11 年と比較して、世界的にスローな経済成長となった。その結果、商品価格は大きなダメージを受け、例えば、豪州産の原料炭は 25% の下落、一般炭は 7% の下落、またニッケルの LEM 価格は 23% 下落した。しかしながら、世界経済は 12 年の終わりから徐々に回復の兆しが見え始めており、13 年に入っても継続している。この動きは中国と米国において顕著で、中国の財政政策の拡大および米国の金融緩和策は明確なメッセージとして市場に受け取られており、両国の景気拡大を後押ししている。こうした動きは、わずかながらでも商品価格の改善を下支えすると思われる。

～事業パフォーマンスについて～

世界経済の悪化という逆風の環境下ながら、12 年は高い成果をステークホルダーに示す事ができた。まず、継続的に行っているコスト削減であるが、12 年度は 176 百万 US\$ を達成し、11 年連続のコスト削減を記録した。これは主に、銅と亜鉛事業における生産数量の増加と生産効率の改善により達成された。次に、生産面での成果について、09 年から進めている成長戦略で公約した 10 件の投資案件 (新規および拡張) が当初のデリバリー予定を前倒しして完工する。

▶ 2012年にデリバリーされた投資案件

✓ 一般炭	Ravensworth North / Stage-1 Ulan	(豪 NSW 州) (豪 NSW 州)
✓ 銅	Ernest Henry Antamina Antapaccay Lomas II	(豪 QLD 州) (ペルー) (ペルー) (チリ)
✓ 亜鉛	Lady Loretta George Fisher	(豪 QLD 州) (豪 QLD 州)
✓ クロム合金	Tswelopele	(南ア)
✓ ニッケル	Koniambo	(ニューカレドニア)

さらに、15年の完工予定に沿って開発を進めているペルーの Las Bambas 銅プロジェクト（40万 t/Y）により、Xstrata の銅アセットはより強固なものとなろう²。

また、13年度も Ravensworth North の拡張、Fraser Morgan の拡張（カナダ・ニッケル）など、進行中の複数のプロジェクトがデリバリーされる予定である。

～財務体質について～

過去から進めている優良な投資案件のデリバリーは12年から13年に集中しており、それに伴う CAPEX 出費もピークとなった（12年は100億 US）。その一方で、ギアリング比率は24%と健全な財務体質を維持している。さらに、有利な金利条件での資金調達（米ドル建とユーロ建で74億 USの社債を発行）を実行し、償還を迎える社債の支払原資等に使用した事で、財務体質はより一層強固なものとなった。

² Glencore との合併に際し、中国当局は Las Bambas 売却を含む条件付き承認を13年4月中旬に提示した。ただし、Xstrata の12年度・年次報告書は13年4月26日に公表されており、それ以前に行われた報告書の作成段階においては、Las Bambas の売却を前提とした表現を避けたものと考えられる。

2-5-2 財務状況

生産量はコア事業の銅では新規の増産分を既存の減産と終鉱が打消し(11年比▲16%)、一方、一般炭では増産分がストレートに寄与(10%)した。鉛・亜鉛は増産分と減産と終鉱を相殺。銅は売上の40%、利益の50%を、また一般炭は売上の30%、利益の40%を占めており、両商品の価格が通年で大きく下落した事で(銅で10%、一般炭で25%)、例外事項を除く税前利益で11年比▲43%となる大幅な減益を余儀なくされた。さらに、プラチナで▲12億US(関連会社分も含む)、ニッケルで4.5億US、その他▲1.8億USの減損が発生した事で、当期純利益は前年比▲80%の12億USと大幅な減益となった。CAPEXは進行中の10プロジェクトがピークを迎えたため、100億USに達し、これは営業CFの倍に相当する。商品市況が今後急速に改善する予兆は弱く、従い、75億USの社債を発行し、足元の資金需要に対応している(3年債が20%、4~6年債が60%、10年超が20%)。内部留保は当期純利益を15%上回る額で、3年連続の増配を実行した。大幅な当期利益の減少と比較的大型の社債の発行により、自己資本比率の低下とDERの上昇が同時に発生。50%前半の自己資本比率を維持できている事、数値面でも0.25から0.4への上昇レベルであり、1を大きく下回る事から、正常な範囲内と考えられる。

2-5-3 主要鉱物の生産状況

※ 自社の権益比率に応じた生産数量であり、実際の販売数量と必ずしも一致しない。
 ※ 第三者から購入した原料や中間品から生産された数量は含まない。

										'08~'12	
		2008	2009	2010	2011	2012	前年比		CAGR	12年の世界シェア	
◇銅部門											
	* 銅 Kt	907	878	905	905	758	-147	▲16.2%	▲4.4%	4位	4.4%
1	* 金 ,000 troy oz	434	292	322	340	239	-101	▲29.7%	▲13.9%	位	0.3%
◇ニッケル部門											
2	* ニッケル Kt	70.7	57.2	60.0	75.6	73.7	-1.9	▲2.5%	1.0%	5位	3.4%
3	* コバルト Kt	1.30	1.30	1.10	1.30	1.30	0.00	0.0%	0.0%	位	1.2%
◇亜鉛部門											
	* 亜鉛 Kt	872	1,141	1,108	1,045	1,060	15	1.4%	5.0%	1位	7.8%
	* 鉛 Kt	249	230	223	219	239	20	9.1%	▲1.0%	1位	4.6%
	* 銀 ,000 troy oz	22,645	22,075	20,781	21,706	21,825	119	0.5%	▲0.9%	7位	2.8%
◇合金部門											
	* プラチナ ,000 troy oz	102	98	87	68	59	-9	▲13.2%	▲12.7%	10位	1.1%
4	* パラジウム ,000 troy oz	49	50	44	35	33	-1	▲3.7%	▲8.9%	位	0.5%
	* ロジウム ,000 troy oz	14	16	15	11	10	-1	▲9.0%	▲7.4%	6位	1.4%
◇石炭部門											
	原料炭 Mt	6.90	6.40	7.70	7.60	6.90	-0.70	▲9.2%	0.0%	位	0.7%
	原料炭(セミソフト) Mt	5.30	6.20	6.60	5.30	4.30	-1.00	▲18.9%	▲5.1%	位	0.4%
	一般炭 Mt	73.30	82.60	65.70	71.40	79.20	7.80	10.9%	2.0%	位	1.2%

* 自社権益分の鉱石生産量に含まれる金属純分ベース

** 自社権益分の製錬量に含まれる金属純分ベース

+ 同グロス重量

1: 生産量の世界ランクは40~50位に位置するレベル。

2: ニッケルのドミニカ共和国でのフェロニッケルのニッケル純分(85.3%出資比率見合いで約13,000t)を含む。

3: コバルト生産量の世界ランクは10~15位に位置するレベル。

4: PGMはMototolo JV(37%権益)及びEland JV(74%権益)の合計で、Lonmin社(24.6%株式)の持分は含まない。パラジウム生産量の世界ランクは10~15位に位置するレベル。

注) 上記の全てはGlencoreが保有するXstrataの34.2%株式分を控除してはいない。

2-5-4 主要オパレーション

生産量は2012年1月~12月の数値を参照している。
 権益比率は2012年12月末時点の数値を参照している。

銅						
・ Alumbra	アルゼンチン	XTA	GoldCorp	TTL		
旧MIM社のアセット。03年にXTAがMIMを買収。アルゼンチン最大。12年度の生産量は世界30位前後で、XTAの9%。						
・ Collahuasi	チリ	XTA	AAL	三井物産	JX金属	三井金属
旧Falconbridgeのアセット。06年にXTAがFBを買収。12年度の生産量は世界10位で、XTAの16%。						
・ Lomas Bayas [SX-EW]	チリ	XTA				
旧Falconbridgeのアセット。06年にXTAがFBを買収。12年度の生産量は世界50位前後で、XTAの10%。 2028年までの16年間に渡り、75Ktpaの生産量維持を目的としたLomas-II鉱区の開発を遂行。 総Capexは293mUS。Y10Q1工事開始。Y12Q2完工。						
・ Antamina	ペルー	XTA	BHP	Teck R	三菱商事	
旧Falconbridgeのアセット。06年にXTAがFBを買収。12年度の生産量は世界2位で、XTAの20%を占める主力鉱山。 Y09Janに38%の生産能力拡張を公表(370Ktpa→500Ktpa)。総Capexは1,288mUS。 Y10Q1に工事開始。Y11/12月に試運転開始。Y12/3月に完了。予算どおりの費用と工期。						
・ Tintaya	ペルー	XTA				
旧BHPのアセット。06年にBHPから750mUSで買収(116mUSは負債)。12年度の生産量は世界80位前後で、XTAの6%。 2012年末に終鉱。						
・ Antapaccay	ペルー	XTA				
Tintayaから10kmに位置する後継鉱区。総Capexは1,500mUS。生産能力は160Ktpa(世界で20位前後の規模)。 Y10H2に建設開始。Y12/11月から商業生産開始。Y13H1にフル生産に到達見込み。予算どおりの費用と工期。						
・ Ernest Henry	豪QLD州	XTA				
旧MIM社のアセット。03年にXTAがMIMを買収。12年度の生産量は世界100位前後で、XTAの4%。 11年12月に露天掘りが終鉱し、589mUSのCapexを投資して、坑道掘りへ移行。12年度は坑道掘りのRamp-Up中により、 12年の生産量は11年の10万から3万tに大きく減少。 12年は坑道掘りから25Ktの銅を生産。1,000m級のシャフトが完工する13年から50Ktのフル生産開始。						
・ Mt. Margaret	豪QLD州	XTA				
Ernest Henryのサテライト露天掘り鉱山。295mUSのCapexで合計14万tの銅をErnest-Henryへ供給。 12年9月に初出荷スタート。30Ktpaを5年に渡って供給する事で、Ernest-Henryの生産量(70~80Kt)を下支え。						
・ Mt. Isa	豪QLD州	XTA				
旧MIM社のアセット。03年にXTAがMIMを買収。12年度の生産量は世界30位前後で、XTAの19%を占める主力鉱山。						
・ Kidd Creek	豪QLD州	XTA				
旧Falconbridgeのアセット。06年にXTAがFBを買収。12年度の生産量は世界100位前後で、XTAの4%。 111mUSのCapexでLOMを2年延長し、18年までとするプロジェクトが11年12月に完工。50Ktpaの生産能力は変わらず。						

・ Perseverance	加OCC州	XTA 100%	TTL 100%
----------------	-------	-------------	-------------

旧Falconbridgeのアセット。06年にXTAがFBを買収。12年度の生産量は世界150位前後で、XTAの1%。12年末の確定埋蔵量が0.56Mtで、年間採掘量が1.0Mtなので、13年Q1には終鉱となる。銅品位は1%で、12年度は10Ktの精鉱生産量。

・ Sudbury - "Nickel Rim South (NRS) & Fraser Mangan (FM)"	加ON州	XTA 100%	TTL 100%
---	------	-------------	-------------

Sudburyの中心であったCraig鉱山とThayer-Lindsley鉱山は08年に終鉱し、09年以降はNRSとFMへ順次移行。NRSはSudbury製錬所から9kmに位置し、銅精鉱30Ktpa、ニッケル精鉱18Ktpaの設計で、LOMIは15年間。09年2月に生産開始し、10年10月にフル生産を達成。工期は予算どおり。Capeは予算どおりの920mCS。工期は6カ月前倒しの完工となった。11年、12年とフル生産が続いている。一方、FMは11年に119mUSで承認された銅精鉱2Ktpa、ニッケル精鉱6Ktpaの新規プロジェクト。LOMIは2025年まで。12年初めから工事をし、13年4月の生産開始予定。NRSとFMへの移行により、従来18Ktpaのニッケル精鉱の生産能力は24Ktpaに約30%増加する

・ Raglan	加OCC州	XTA 100%	TTL 100%
----------	-------	-------------	-------------

旧Falconbridgeのアセット。06年にXTAがFBを買収。530mUSを投下する鉱区計画(取締役会承認は11年8月)。N精鉱が主体の計画だが、銅精鉱も僅かに併産(10Ktpa程度)。Nは3.9%、Cuは1.26%で、100万tの鉱量を持つMine-2鉱区を12年から開発し、14年から生産開始。並行して、Nは4.4%、Cuは0.85%で、260万tの鉱量を持つQakimajuro鉱区を11年後半から開発し、16年から生産開始予定。これにより、ニッケル精鉱ベースで、14年までに現在の23%増となる32Ktpa、16年までにさらに25%増の40Ktpaを予定。精鉱はSudburyの製錬所へ供給される。

・ Cosmos & Sinclair	豪QLD州	XTA 100%	TTL 100%
---------------------	-------	-------------	-------------

旧Jubilee社のアセット。08年3月にJubilee社を2,751mUSで買収。Cosmosは買収前の00年から操業している鉱山で、12年9月、市況悪化を受けて生産停止。一方、Sinclairは買収後の08年10月から操業開始。

・ Falcondo (Bonao)	ドミニカ	XTA 85.3%	TTL 85%
--------------------	------	--------------	------------

旧Falconbridgeのアセット。06年にXTAがFBを買収。FeNiで28Ktpaの生産能力。ニッケル価格の低迷により、08年8月から11年2月まで30カ月間、生産を停止。11年2月からは50%稼働で生産再開。停止中は、炉のメンテナンス、熱源を石油から石炭に切り替えるFS、新規鉱区(Loma Miranda)の採鉱を行い、操業の長期安定化に向けた各種の調査を実施。12年9月、環境への影響に懸念があるとして、管轄する地方裁判所が計画中のLoma Miranda鉱区開発の禁止を通過。大統領決定に従い、UNDPが環境評価報告の審査を行い、それを踏まえての政府決定が13年中に下される運びとなっている。既存のBonao鉱区の経済性が低下している事から、Loma-Miranda鉱区の開発が行われない場合、5年後で全面撤退するシナリオが現実味を帯びるとしている。

・ Koniambo	ニューカレドニア	XTA	SMSP	TTL
		49%	51%	100%

旧Falconbridgeのアセット。06年にXTAがFBを買収。世界最大級の高品位ニッケル鉱床(サブライト)鉱の埋蔵量6,250万t、品位2.4%、鉱命25年)から60Ktpaのフェロニッケルを生産するプロジェクト。
07年10月、総Capexを3,800mUS\$、生産開始を11年上期、Ramp-Up終了を13年とすFeNi製造コンプレックス(鉱山、製錬所、港灣、発電所、居住区、等)の開発を正式に決定。
11年8月、建設費の増加によるコストオーバーランのため、Capexを3,800mUS\$から5,000mUS\$に修正すると発表。
Line-1(FeNi: 30Ktpa)は12年11月に完工。13年Q1に火入れの予定。Line-2(同)は12年末で57%の進捗。
Ramp-Up終了は14年末~15年上期と初期計画から約2年の遅れ。

・ Kabanga	タンザニア	XTA	Barrick G	TTL
		50%	50%	100%

産金世界最大のBarrick Goldのアセットで、旧Falconbridgeと50:50のJVを組成。06年から探査活動を行っている。精測資源量で鉱量1,380万t、Ni品位2.49%が確認されている。
13年中にタンザニア政府との開発契約に関する最終合意が為され、最終的な事業評価結果を得られる予定。

鉛・亜鉛	・ Antamina	ペルー	XTA	BHP	Teck R	三菱商事	TTL
			33.75%	33.75%	22.50%	10.00%	100%

旧Falconbridgeのアセット。06年にXTAがFBを買収。12年度の生産量は世界2位で、XTAの20%を占める主力鉱山。Y09Janに38%の生産能力拡張を公表(370Ktpa→500Ktpa)。総Capexは1,288mUS\$。
Y10Q1に工事開始、Y11/12月に試運転開始、Y12/3月に完了。予算どおりの費用と工期。

・ Mt. Isa (Black Star) 鉱区、George Fisher South/North 鉱区、Handlebar Hill 鉱区	豪OLD州	XTA		TTL
		100%		100%

旧MIM社のアセット。03年にXTAがMIMを買収。12年度の生産量は鉛が世界3位、亜鉛が世界4位。
XTAの鉛生産量の65%、亜鉛の37%を占める主力鉱山。
2つの露天掘り鉱山(Black Star 鉱区、Handlebar Hill 鉱区)、1つの坑内掘り鉱山(George Fisher 鉱区)、選鉱設備、製錬所からなる亜鉛・鉛コンプレックス。

選鉱設備は6.5Mtpaから8.0Mtpaに拡張済み(09年完工)で、これに合わせた鉱石生産の拡張計画を進めている。

- ① Black Starの拡張
 - ・ 10年4月、100m深く鉱体を広げ、14Mtの鉱量を増やす計画(CAPEX: 133mAS)。
 - ・ 4.6Mtpaの鉱石生産で、LOMを3~4年延長する。12年から生産開始。
- ② George Fisherの拡張: 10年10月、3.5Mtから4.5Mtに鉱石生産を増やす計画(CAPEX: 246mUS\$)。
13年から鉱石生産開始予定。

・ McArthur River	豪NT準州	XTA		TTL
		100%		100%

旧MIM社のアセット。03年にXTAがMIMを買収。05年にANT Minerals社の25%持分を買出し、100%子会社化。
12年度の生産量は鉛が世界10位前後、亜鉛が世界6位で、XTAの鉛生産量の17%、亜鉛の16%を占める準主力鉱山。
12年8月、360mUS\$を投資して、14年までに生産能力を倍増させるフェーズ3計画をスタート(鉱石処理量で2.5Mtから5.5Mt)。
当局による環境許可は12年Q3に条件付き承認済み。
13年に試運転を開始し、14年にフル生産の予定。フル生産時の生産能力は亜鉛で380Ktpa、鉛で93Ktpaと現在の約2倍となる。
また、LOMも2027年から2038年に11年延長となる。

<p>・ Brunswick 旧Falconbridgeのアセット。06年にXTAがFBを買収。12年度の生産量は鉛、亜鉛ともに世界10位前後。XTAの鉛生産量の19%、亜鉛の16%を占める主力鉱山。埋蔵量の枯渇により、13年Q1に終鉱予定。1964年に開山、世界最大級の亜鉛鉱山が約50年の歴史に幕を下す。</p>	加NB州	XTA 100%	TTL 100%
<p>・ Perseverance 旧Falconbridgeのアセット。06年にXTAがFBを買収。12年度の亜鉛生産量は15位前後で、XTAの12%。08年から生産を開始。確定+推定埋蔵量が5.1Mtで、年間1Mtの採掘計画にて、当初から5年程度のLOM。12年末の確定埋蔵量が0.56Mtなので、13年Q1には終鉱となる予定。</p>	加QC州	XTA 100%	TTL 100%
<p>・ Lady Loretta 旧Falconbridgeのアセット。06年にXTAがFBを買収。11年4月に残り25%株式を購入し、100%子会社化。</p>	豪QLD州	XTA 100%	TTL 100%

11年07月： 239mUSのCapexで、亜鉛126Ktpa、鉛40Ktpaの生産を13年末から15年程度行うGFベースの鉱山開発を公表。

精鉱は140km北西のMt Isaで精錬される。

12年05月： 原鉱石の処理量を1.0Mtpaから1.2Mtpaに拡張し、また生産開始を12年末に1年前倒しするために、57mUSの追加投資を決定。

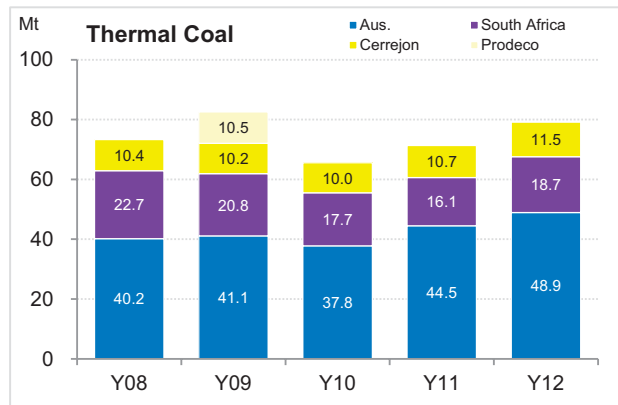
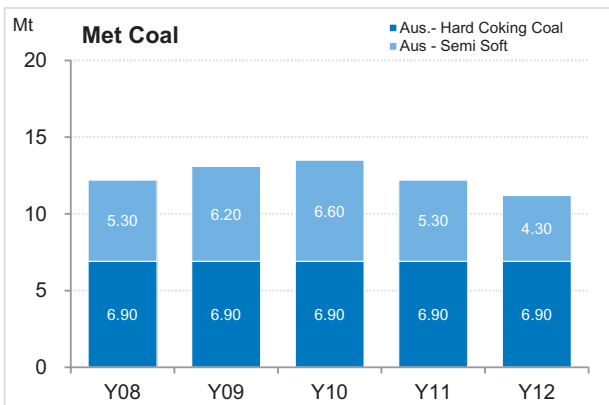
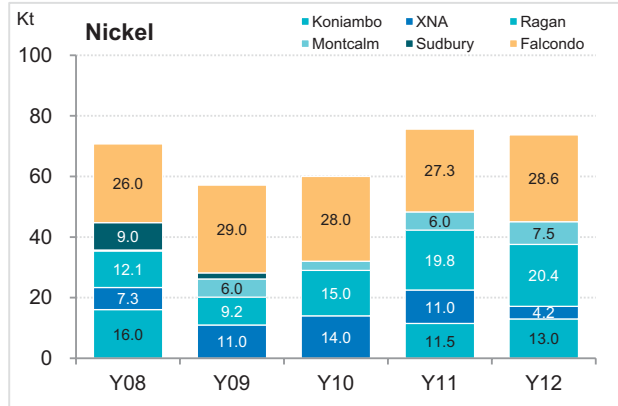
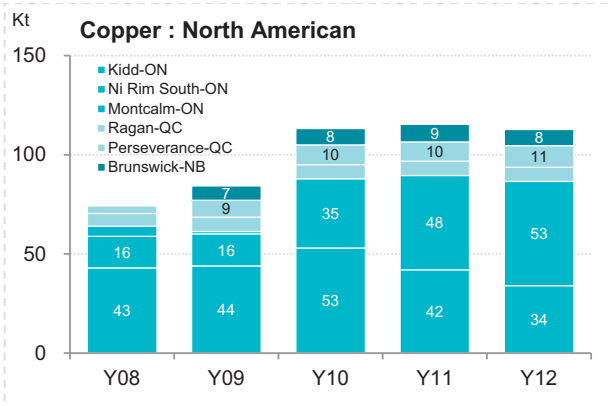
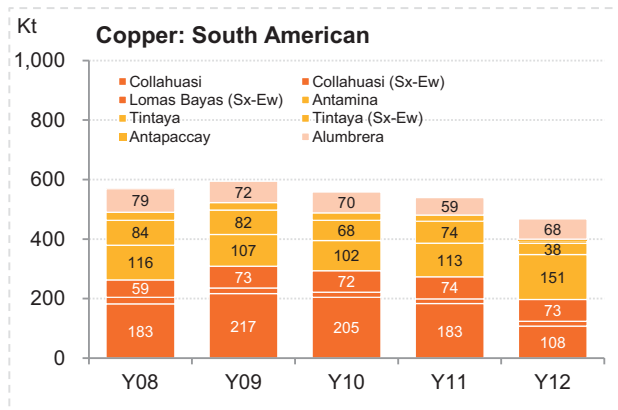
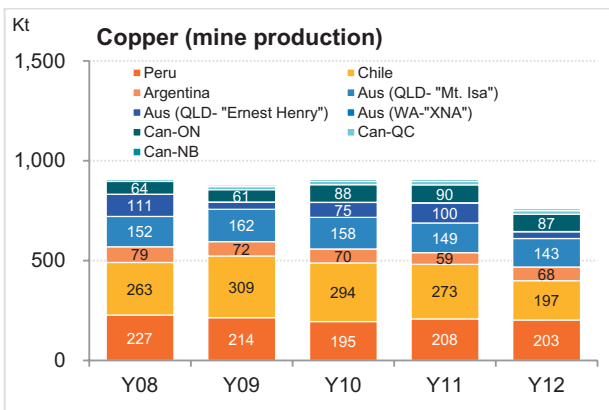
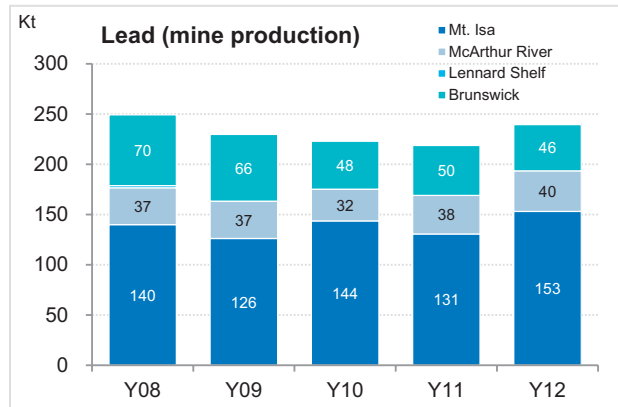
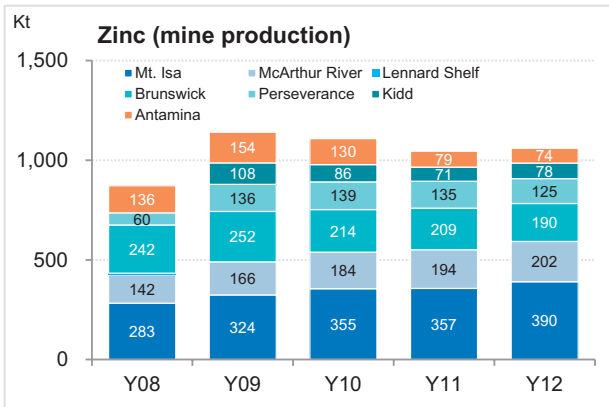
12年09月： 1年前倒しの計画をさらに3か月早め、最初の鉱石処理がスタートした。フル生産は13年中頃の予定。

12年12月： 1.2Mtpaの鉱石生産量をさらに33%増やし、16年までに1.6Mtpaとする計画を発表（CAPEX: 60mUS）。累計356mUS。

12年末時点での推定と確定の合計埋蔵量は12.6Mtで、品位はZnが平均14.6%、鉛が平均5.3%。

1.2Mtpaの鉱石処理量が4年、1.6Mtpaで5年、合計でLOMは約9年と試算。

2-5-5 オペレーション別の生産量（自社権益比率に応じた持分生産量）



2 - Xstrata

2-5-6 主なトピックス（12年会計年度：2012年1月1日～2012年12月末）

✓ Glencore との合併

12年2月、Glencoreが株式交換による合併の提案（Xstrata株1に対して、Glencore株2.80）を行い、Xstrataの取締役会が基本合意した後、Xstrata側の株主が合併条件の改善（同3.25株など）を長らく求めていたが、Glencore側は同2.8株には十分な価値があるとして、交渉は平行線を辿っていた。最終的に3.05株に引き上げる事でGlencore側が譲歩し、12年11月にXstrataの株主総会で合併への賛成が得られた。一方で、EUや南アフリカ、中国等の当局による独占禁止法抵触の調査が合併協議と並行して行われ、南ア当局が12年10月に、次いでEU当局が同年11月に比較的緩やかな条件での合併を承認した。しかし、残る中国当局による調査が長引いており、年内の合併は延期された。

合併後の生産規模は、銅120万t（世界4位）、亜鉛160万t（世界1位）、鉛320万t（世界1位）、ニッケル11万t（世界4位）および一般炭1億2,500万t（海上貿易量で世界最大）となり、資産規模は1,560億US\$となる見込み。これはBHPの1,381億US\$を抜いて、資源大手で最大規模となる。

なお、買収金額はXstrataの純資産が321億US\$にのれん代の126億US\$が加わり、448億US\$が予定されている。正式な合併期日は中国商務省の承認後となり、13年1月末の予定。

✓ 大型プロジェクトが相次いで完工

10年と11年に工事を開始した複数の大型案件が12年に完工し、早いものは生産開始を迎えた。非鉄関連の案件は以下のとおり（プロジェクト名の後ろの金額は12年末までに投下された総CAPEX）。

Cu	: Lomas II	(300mUS\$)
	Antamina	(1,300mUS\$)
	Antapaccay	(1,500mUS\$)
	Ernest Henry	(60mUS\$)
Ni	: Koniambo, Line-1	(5,000mUS\$)
Pb+Zn	: George Fisher	(25mUS\$)
	Lady Loretta	(300mUS\$)

✓ McArthur River 亜鉛・鉛鉱山の拡張を取締役会が承認

12年8月、3.6億US\$を投じて、McArthur Riverの生産量を2倍にする計画がスタート。13年に試運転を開始し、14年にフル生産に移行する予定。亜鉛で380Ktpaの生産量はMt. Isaと同レベルで、世界トップ5に入る。

- ✓ プラチナ生産大手 Lonmin の割当増資（2 億 US\$）を引き受け
12 年 12 月、24.6%株式を保有する Lonmin が既存株式 5 株に対して 9 株の RIGHTS-ISSUE を実行。総額 8.24 億 US\$のうち、Xstrata は自社割り当て分 2 億 US\$を全額行使した。なお、保有シェアは 24.6%で変わらない。